

闇夜におまえを思ってもどうにもならない 目次

——ウエシヤーマチ温家蜜村の風景

登場人物名 ii

第一話	親戚	3
第二話	女房	7
第三話	レンアルの気がふれた	10
第四話	燕麦 <small>オトメ</small> のワラの中で	15
第五話	グオコウおじさんの酒	20
第六話	亭主	24
第七話	泥棒	30
第八話	サンゲアフ	37
第九話	ゴウズ	44
第十話	持ち寄り宴会	54
第十一話	レンアル、レンアル	60
第十二話	フウニユウ	74
第十三話	油糕 <small>ユウカウ</small> を食べる	86
第十四話	グイジュじいさん	95
第十五話	タンワ	106
第十六話	ハイニユとアルイ	121
第十七話	ひなたぼっこ	141
第十八話	ズーズーの女房	153

第十九話	フウニユウの青春	166
第二十話	天国のトビラ	177
第二十一話	夜警	187
第二十二話	ゴウズ、ゴウズ	199
第二十三話	チヨウバン放牧する	212
第二十四話	ウエンシヤンの女房	239
第二十五話	燕 ^{ヒナ} 麦粉の匂い	253
第二十六話	ラオイニン	260
第二十七話	畑の見張り番	273
第二十八話	グイジュとパイポー	284
第二十九話	ハタリス狩り	298
第三十話	ユージャオ	316
『闇夜におまえを思ってもどうにもならない』を読んで	汪曾祺	363
【付録】おまえはキツネにおれはオオカミに——私と山西省北部の民謡	曹乃謙	371
【付録】本物の田舎者	ヨーラン・マルムクイスト（スウェーデン）	
訳者あとがき		379

登場人物名

アルズー(二柱)——ラオズブズー(老柱柱)の弟。カオリヤン(高梁)とユージャオ(玉菱)の叔父。
インラン(銀蘭)——ジンラン(金蘭)の妹。
ウーチェンアルフオ(五成児貨)——バンニユ(板女)の夫。
ウーグータン(五圪蛋)——年老いた独身男。
ウーグータン(五圪蛋)の叔母。
ウエンシヤン(温善)の女房——地主のウエンシヤンの女房。ホホ(和和)の母親。グイジュ(貴拳)の愛人。
ウエンハイ(温孩)——ダーゴウ(大狗)とシヤオゴウ(小狗)の父親。自分の考えを持たない男。
ウエンハイ(温孩)の女房——ダーゴウ(大狗)とシヤオゴウ(小狗)の母親。フウニユウの愛人。
ウエンパオ(温宝)——中年の独身男。口が達者で歌がうまい。
ウエンホホ(温和和)——ナイ(奶)あんちゃん。ホホ(和

和)とも呼ばれる。

おアゴ(大下巴)——公社の水利を管理する幹部。
会計係——温家審村の財政を握る人。
カオリヤン(高梁)——ラオズブズー(老柱柱)の長男。
ユージャオ(玉菱)の兄。
グアングアン(官官)——年老いた独身男。目が見えない。占いができ、温家審村の賢人。
グイジュ(貴拳)じいさん——年老いた独身男。解放前は地主のウエンシヤン(温善)に雇われていた作男。その後、温家審村で家畜の放牧と飼育の係になる。
ウエンシヤンの女房の愛人。
ガオコウ(鍋扣)おじさん——サングアフ(三寡婦)の愛人。弟のペンコウ(盆扣)は省の役人。
ゴウズ(狗子)——骨身を惜しまず働くことしか知らない苦勞人。
ゴウニユ(狗女)——ゴウズ(狗子)の義妹。
サングアフ(三寡婦)——サンバン(三板)とも呼ばれる。
ツァイツァイ(財財)の母親。元は大同市街の売春婦。

夫が黄痘を患って亡くなった後、温家密に定住。

サンゲアフの夫——大同の街から温家密までの中間に位置する某農村の羊飼ひ。

シーライ(拾来)——タンワ(蛋娃)の妻の父。タンワの岳父。

シーライ(拾来)——タンワ(蛋娃)の妻。ヘイタン(黑蛋)の親戚の養女。

シヤオゴウ(小狗)——ウエンハイ(温孩)夫婦の次男。

シャートンピン(下等兵)——經驗豊かで見聞が広く、知恵がある年老いた独身男。

ジンラン(金蘭)——レンアル(楞二)が片思いしている娘。

ズーズー(柱柱)の女房——ラオズーズー(老柱柱)とアルズー(二柱)が共有する嫁。カオリヤン(高梁)とユージャオ(玉菱)の母。下放幹部ラオチャオ(老趙)の愛人。

生産隊長——温家密村の行政を握る人。

ダーゴウ(大狗)——ウエンハイ(温孩)夫婦の長男。

タンワ(蛋娃)——ヘイタン(黑娃)の息子。言動が卑劣で、人に嫌われる若者。

チヨウあんちゃん(丑哥)——正式な名前はチヨウバン(丑帮)。勤勉だが良運に恵まれない若い独身男。

チヨウチヨウ(丑丑)——中年の独身男。チヨウバン(丑帮)の兄。

ツアイツアイ(財財)——サンゲアフ(三寡婦)の息子。

ツアイツアイ(財財)の女房——サンゲアフ(三寡婦)の息子ツアイツアイの妻。

ナイ(奶)あんちゃん——中年の独身男。幼名はホホ(和和)。父親は地主のウエンシヤン(温善)、母親はウエンシヤン(温善)の女房だが、実際はグイジュ(貴举)

と母親の私生児。
ヌヌ(奴奴)——チヨウあんちゃん(丑哥)の恋人。炭鉱

に嫁に行く。
パイバイ(白白)——ウーゲータン(五圪蛋)の嫁にする

ため、母親が妹と引き換えにもらってきた女の子。

バンニユ(板女)——ウーチェンアルフオ(五成兒貨)の

妻。乳兄弟ナイ(奶)あんちゃんの恋人。

フウニユウ(福牛)——若い独身男。後にウエンハイ(温孩)の妻の愛人になる。

ヘイタン(黒蛋)——タンワ(蛋娃)の父親。「中国人てのは、言ったことは守るのさ」をモットーに行動する人物。

ヘイニユ(黒女)——心根がよい老女。

ヤンワ(羊娃)——若い独身男。温家密の羊飼ひ。

ユージャオ(玉茭)——若い独身男。ラオズーズー(老柱)の次男。家族に生き埋めにされる。

ラオズーズー(老柱柱)——ズーズーともいう。カオリ

ヤン(高粱)とユージャオ(玉茭)の父親。

ラオチャオ(老趙)——下放幹部。

ラオイニン(老銀銀)——年老いた独身男。目が見えない。

レンアル(楞二)——ジンラン(金蘭)に片思いしている若い独身男。

レンアルの父親——正式の名前はない。

レンアルの母親——正式の名前はない。子どものために自分を犠牲に出来る女。
レンダー(楞大)——レンアルの兄。炭鉱で働いている。

第二話 女房

ウエンハイ（温孩）がとうとう嫁つ子をもらつて、村中が喜んだ。だが、ウエンハイの寢室の外で聞き耳を立てた者が帰つてみんなに報告して言うには、嫁つ子はひと晩中ウエンハイに何もさせてやらなかつた。嫁は赤い腰帶をきつく結び、頑としてほどこいてくれようとしなかつた。泣いて、泣いて、ひと晩中泣きじゃくっていたそうだ。

その後、こんな噂が村中に広まつた。ウエンハイの嫁は、ウエンハイのためにズボンを脱がないばかりか、野良に出て働こうともしないというのである。そればかりか、ウエンハイが畑仕事から戻つて来ても、メシを作ってくれないという。泣いて、泣いて、一日中泣きじゃくっている。

そのうち、村中が騒ぎ出した。夜にズボンを脱いでくれないのはまあ譲れるけど、昼間野良に出ず、メシも炊いてくれないのは譲れないぞ、と。

「この温家ウエンハイ密ヒソカじゃ、先祖代々こんな話は聞いたことがねえ」と村人がウエンハイに言った。

「おら、どうしたらよかんべ？」

「ひっぱたかれないで、女が言うことを聞くと思うけ？」

「そんなこと、おらにはできねえ」

「おまえの母ちゃんに聞いてみるとええさ」。顔のしわは耕したけれどもかきならしてはいない山の斜面みたく、あごひげはヤギがかじりかけて途中でやめた土まんじゅうの草みたいな爺さんが言った。ウエンハイが母親に聞いてみると、こんな答えが返ってきた。「木を真つすぐ育てたいなら、あちこちの小さな枝は叩き切らなきゃなんねえ。おなごも同じだべ」

家に帰ると、ウエンハイは目から火が出るほど嫁をぶん殴った。顔中黒いあざや青いあざだらけになるほど。

その夜、ウエンハイの寝室の外で聞き耳を立てていた村人の話によると、効果はできめんだった。ウエンハイは嫁の上に跨がり、あれをした。しながら、こんなことをぶつぶつ言っていたという。

「クソタレ。おらがおめえとして思うな。おらは、親父が払ったあの二千元としているんだ。クソタレ。おらがおめえとして思うな。おらは、親父が払ったあの二千元としているんだ」

「ウエンハイの親父さんも昔、ああやってウエンハイのお袋をしこんだんだ」と、ある人が言った。このあと、ウエンハイの嫁は亭主のためにメシを作ってくれるようになった。

しばらくすると、亭主が畑に出かけると、三歩下がって亭主の後を歩き、鋤を担いで野良仕事にも出るようになった。

畑に出ているほかの女たちは、ウエンハイの女房を見つけると、いかにもいけ好かないといった風情で頭を振り、目配せをし合った。

「見なよ、黒いあざ。青いあざ」

「見なよ、黒いあざ。青いあざ」



しばらくすると、亭主が畑に出かけると、三步下がって亭主の
後を歩き、鋤を担いで野良仕事にも出るようになった。

訳者あとがき

本書は『到黑夜想你没办法——温家窑风景』（長江文芸出版社、二〇〇九年版）の全訳です。一篇一篇が完結な文体で構成されており、短編小説かと思いきや、実は全編が一つに繋がっている長編小説であることが次第に分かる、不思議な魅力を放っている作品です。読んでいるうちに、黄土高原の土の匂いが立ち込める温家窑の世界にいつの間にか引き込まれてしまいました。

本書の舞台は、山西省北部の、地図には載っていない架空の村です。物語は、プロレタリア文化大革命（一九六六年～七六年）の嵐が中国全土で吹き荒れていた一九七三、四年ごろ、その寒村でどん底の生活を強いられていた農民たちの食への飢えと性欲をリアルに描写しています。極貧のため妻を娶って一家を成すことすら出来ない独身男たちの話が頻繁に出てくるため、本書は海外において『檀山節考』（深沢七郎）の中国版とも評されています。確かに、棄老の風習はないものの、『檀山節考』や『季節のない街』（山本周五郎）、『忘れられた日本人』（宮本常一）に登場する、かつての日本の貧民街や寒村に生きた人々との類似点が少なからずみられます。

本書に劣らず著者自身の生い立ちも衝撃的です。一九四九年一月、山西省応県下馬峪村に生まれた著者は、生後七カ月のとき、隣の家に住んでいた女性に連れ去られました。結婚後十年経っても子宝に恵まれなかったその女性は、自分によく似た著者をとても可愛がり、ある日、著者を抱きかか

えて逃走、そのまま大同に住みついて養母となり、著者を自分の子として大事に育てたそうです。その経緯は養母を題材にした小説『換梅』に詳しく描かれています。ちなみに、養父は人民公社の幹部でした。

高校卒業後、炭鉱労働者、文化宣伝工作団の楽器演奏者を経て、七二年に大同市公安局の警察官に採用されました。七四年の二十四歳のとき、警察官として下放知識青年の一団を省北部の北温べいおん密村ミヤオに引率する隊長となり、一年間滞在する任務を命じられました。

下放知識青年とは、文革中、毛沢東主席の呼びかけに応じて労働や思想改造のため、都市から農山村に移住した中学生や高校生の若者たちのことです。都会の若者たちが慣れない農山村でホームシックに陥らず、順調に定住できるように指導し、村人たちに対して若者たちを冷遇したり、不公平に扱ったりさせないようにするのが役目だったそうです。

「あの一年間の体験があったからこそ、私はこの長編小説を創作することができたのです」。著者はこう訳者に断言しました。さらに、飢えと貧困にあえぐ農民に強い関心を抱き、「社会の最底辺にいる人々の生き様を描くことが、私の不変のテーマです」とあちこちで語っています。

本書は、二十九の短編と最終話の中編から構成され、子どもから大人までの約五十人が登場します。著者によると、第七話までが全体のプロlogueで、第八話以降のストーリーへと導いています。各話の登場人物と場景も互いに交差します。圧巻の最終話では、性欲が強過ぎるラオズズー（柱柱）の次男、ユージャオ（玉菱）をめぐる話の中に各話の主要人物をほぼ全員登場させ、貧しくてもなんとかやっていった一家の壮絶な悲劇として完結させています。

二〇〇九年秋、著者は日本中国文化交流協会に招かれた中国作家代表団の一員として初来日し、滞

〔訳者〕

杉本万里子（すぎもと・まりこ）

北京大学中立系文学専業（中国文学学部）卒業。共同通信社
記者などを経て、現在は企業の中国語翻訳を担当。

闇夜におまえを思ってもどうにもならない

ウエンジャーヤオ
——温家窑村の風景

2016年8月20日 初版第1刷印刷

2016年8月30日 初版第1刷発行

著者 曹乃謙

訳者 杉本万里子

発行所 論創社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル
電話 03-3264-5254 振替口座 00160-1-155266

装丁 宗利淳一

印刷・製本 中央精版印刷／組版 フレックスアート

ISBN978-4-8460-1497-1

落丁・乱丁本はお取り替えいたします